

平成30年9月26日

伊奈町長 大島 清 様

伊奈町行財政改革推進会議  
会 長 都 筑 信

観光の振興による産業の活性化策について（答申）

平成29年10月2日付け企発第89号で諮問のあったことにつきまして、次のとおり答申いたします。

なお、付記した意見につきましても留意されますよう要望いたします。

答 申

伊奈町には町制施行記念公園のバラ園、無線山さくら並木、伊奈氏屋敷跡などの観光資源があり、これらの資源を活かして、さくらまつり、バラまつり、伊奈まつりなどのイベントが開催されております。しかしながら、この優れた観光資源を有効に活かしきれておらず、町内入込客数は伸び悩んでおります。

そこで、このような状況を打破するため、観光の振興による産業の活性化策を検討する場として諮問を受けたものです。本会議は各イベントの来訪者の多くが、イベント参加後、町内を回遊することなく帰途についている現状から、この原因を町内の魅力的な史跡や景観・飲食店・特産物販売所、あるいは、スポーツ・文化・産業等の体験公開施設、さらには、併行開催されているイベント等の情報提供が十分でなく、また、これらを連携させ回遊して楽しめるモデルルートの設定が未整備なためであると考えました。

そこで改めて新たな視点もふまえて、伊奈町内の観光資源を検討するとともに、それらが来訪者に感動や満足を与える具体的方策をどう展開すべきかを協議いたしました。

その結果、首都圏に立地する地の利や交通アクセスの特質を十分に活用しつつ、四季に応じて来訪者が町内を回遊し楽しめる日帰りモデルルートを積極的に開発し、季節ごとのテーマに沿った観光資源に接し、交流や体験、特産品の購入や飲食によって満足感を深めるための仕組み作りが必要であるという結論に

至りました。このことは町内の産業や産物への認識の広がりを産み、経済効果も期待されると思われます。つきましては、以下について取り組まれるよう答申します。

- 1 年間を通して多くの人を訪れて頂けるような食べ歩き、伊奈町の四季を感じるウォーキングコース、自然・史跡巡り、生産や作業の現場見学や体験を初め、季節や目的に応じた魅力的な回遊ルートの開発。
- 2 多くの観光客が訪れている鉄道博物館からのアクセスが良好である地の利を活かした、埼玉新都市交通等と協調した新たなイベントの実施。
- 3 各駅周辺及び公共施設等で来訪者と住民の交流が図れる産直販売「マルシェ」等の開催。
- 4 回遊ルートの開発にあたっては、町内へ通う学生や企業等からも広く意見を頂き、官民協働で作成するよう努められたい。
- 5 町内回遊のサポート策として、循環バスいなまるの活用策や町内5駅と県民活動総合センターで貸出しているレンタサイクル忠次号の設置箇所を拡大するなど、利便性の向上を図られたい。

## 意 見

- 1 伊奈町は首都圏から近く、また交通の便に恵まれていることから、伊奈町全体を一つのテーマパークと見立て、日帰りで楽しめる町内巡りマップを、テーマやターゲットごとに作成し、多様化するニーズへの対応を図られたい。
- 2 町内にある農地、果樹園、雑木林やバラ園などの活用を通して、観光客と地域の人がともに参加し、交流できる体験交流型観光の開発を図られたい。
- 3 多様化する観光ニーズに確実に情報を届けるため、発信したい情報を明確にし、不特定多数へ情報を発信するのではなく、ターゲットを絞り込み、効率的かつ効果的な情報発信に努められたい。
- 4 町の境界を走る県の広域サイクリングロード「緑のヘルシーロード」利用者の休憩施設等を利便性の高い四季彩館等に整備し、利用者の誘致を図るとともに、町の特産品や近辺の観光資源のPRを行うことも研究されたい。